

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)統合新病院整備工事 | 階数 | 地下1F 地上8F |
| 建設地 | 兵庫県伊丹市昆陽池1丁目100番他42筆 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 第2種中高層住居専用地域、第2種住居地域、準住居地域 | 平均居住人員 | 1,200 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 病院 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2026年12月 予定 | 評価の実施日 | 2022年3月2日 |
| 敷地面積 | 25,800 m ² | 作成者 | 株式会社久米設計 |
| 建築面積 | 11,777 m ² | 確認日 | 2022年3月2日 |
| 延床面積 | 56,831 m ² | 確認者 | 株式会社久米設計 |



| 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | 2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート) | 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) |
|--|--|----------------------|
| <p>BEE = 4.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> | <p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み 54% (99 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③上記+②以外の 54% (99 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>④上記+ 54% (99 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p> | |

| 2-4 中項目の評価(バーチャート) | | |
|---------------------------------------|--|---|
| <p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.7</p> | | |
| <p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3</p> | <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.4</p> |
| <p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.3</p> | | |
| <p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.9</p> | <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.9</p> | <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.9</p> |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|---|---|
| <p>総合</p> <p>伊丹市に計画されている病院である。「職域と地域に応える健康づくり」の基本理念のもと、患者さま、ご家族など、病院の利用者や職員等にとって快適で利用しやすい環境を実現する計画としている。また、太陽光発電、地熱利用をはじめとした自然エネルギー利用を行っており、環境負荷低減にも大きく貢献した施設である。</p> | | |
| <p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性の高い建築材の採用による、室内温熱環境への配慮。 | <p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 免震構造の導入等、地震時の安全性に配慮する。 非常用発電設備の設置等、災害時の設備機器の機能維持を図り建物の信頼性の向上に配慮する。 | <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外構・屋上への積極的な建物緑化により、生物環境の創出や温熱環境の向上に配慮している。 空間提供、施設提供による地域貢献等、地域性に配慮した計画としている。 |
| <p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性の高い建材を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 BEMSの導入により、エネルギーの効率的運用に配慮している。 | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水型機器の採用により、水資源保護に配慮している。 リサイクル材や再利用可能なユニット部材の採用等により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 | <p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される